

「出題の意図」

選抜区分	2024 年度 （選抜区分：一般後期） 文学部人間関係学科 （科目名：集団討論）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>1. 出題の背景・求める能力</p> <p>後期日程の試験科目である集団討論は、与えられた討論テーマに基づいた数人の受験生による討論形式の入試である。テーマを設定した討論場面において、自分自身の見解をテーマに沿って論理的・独創的に表現できる能力、情報提供や意見調整など円滑なコミュニケーションを進める能力、集団の中で適切なかたちでリーダーシップを発揮していける能力などが求められる。</p> <p>2. 解説</p> <p>今年度の集団討論は、1 試験室につき受験生 6～5 名を 1 グループとして 5 つの試験室で同時に進行し、それを 3 回繰り返す形で進めた。</p> <p>同一時間帯で実施されるグループには共通の討論テーマが与えられ、時間帯が異なる場合には別のテーマが設定された。以下に各回のテーマごとに解説する。</p> <p>【集団討論 1 回目】</p> <p>解説：チャット GPT のような人工知能（AI）を使ったチャットサービスと私たちはどのように向き合えばよいのかを討論してもらった。</p> <p>AI チャットサービス利用経験の有無が発言のしやすさに多少影響していたようである。サービス利用のメリット・デメリットの整理は多くのグループでなされていた。また、情報リテラシー教育の必要性についての議論も出ていた。しかし、それらを踏まえて「私たちがどのように向き合えばよいのか」については一般論が述べられ、自分たち自身がどのようにすればよいのかという視点から議論できたグループは少なかった。</p> <p>【集団討論 2 回目】</p> <p>解説：インターネットが日常生活に欠かせない現代の情報社会でみられる最近の問題と、私たち一人一人がどのように情報を見極めるべきかを討論してもらった。</p> <p>受験生にとって身近な話題であるため意見は活発に出ていた。しかし、問題設定がうまくいかず（例えば、インターネットの使用方法の問題なのか、フェイクニュースの問題なのか）、議論を深めることができていないグループがあった。情報の真偽を見極めるためには複数の情報を確かめること、公的情報を参照することなどが挙げられた。一方で、公的情報も情報が偏っていることがあるため、慎重に扱うべきであるという意見も挙がっていた。</p>

【集団討論 3 回目】

解説：主として近隣に居住するものの利用に供することを目的とする「近隣公園」の理想的なあり方について討論してもらった。

1 回目の討論テーマと同様に、近隣公園利用経験の有無が発言のしやすさに多少影響していたようである。近隣公園の理想的なあり方として「遊びの場」「交流の場」「運動の場」といったような意見が出ていた。司会者やタイムキーパーを決め、時間を有効に使って活発な議論ができていたグループと、司会者がおらず沈黙が続くグループがあった。

➤ 受験生への情報提供

普段の生活や社会の動きの中から課題や問題点をみつけ、それを言葉にする練習や、集めた情報を整理したりする練習が集団討論に役立つと思います。また、それを友達と話し合ってみるのも良いと思います。自分の意見を持つ、他者とやりとりすることで、多様な視点を理解し獲得することや、問題の捉え方について深めていくことが求められます。